

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。
■文中で旧 URL (<http://www.nougyou.kitakami.iwate.jp/agri/>) を記載している場合、新 URL (<http://i-agri.net>) に読み替えてください。

平成14年 1月

病害虫防除技術情報

No.13 - 1

岩手県病害虫防除所

平成13年にカメムシ類による斑点米が少なかったのはなぜか？

平成11、12年と連続して斑点米が多発した。平成13年も8月上旬まで斑点米カメムシ類の発生が多かったが、斑点米の発生は平年より少なかった。平成11、12年との比較等から推定される要因は以下のとおりである。

7月下旬～8月中旬の低温により、アカスジカスミカメ第2世代幼虫の発育が遅れた。このため成虫の発生時期は8月下旬以降になり、加害時期が遅れ、期間も短かった。

カメムシ類の増殖源となる転作牧草地や雑草地、畦畔雑草等の水稻出穂期前の刈り取りや本田での薬剤防除が徹底された。

平成13年の斑点米カメムシ類および斑点米の発生状況

- 1 畦畔での斑点米カメムシ類の発生量は、7月下旬まで平成12年より多く、8月上旬も平年より多かった(図1)。
- 2 本田での斑点米カメムシ類の発生量は、出穂始期である8月上旬は、平年より多かったが、8月下旬と9月中旬では平年より大幅に少なかった(図2)。
- 3 斑点米の発生は、多発した平成11・12年を大幅に下回り、平年よりもやや少なかった(図3)。

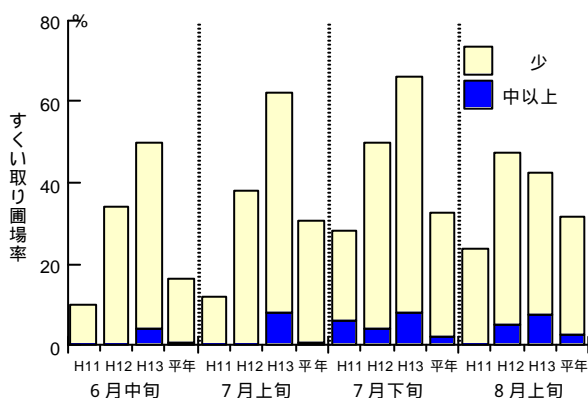


図1 畦畔斑点米カメムシ類発生圃場率の推移 (巡回調査圃場畦畔、すくい取り、20回振)

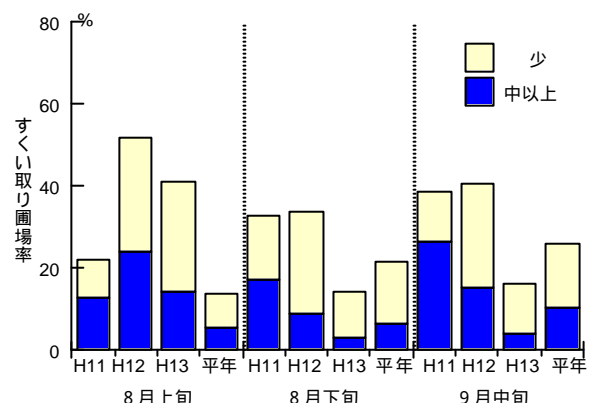


図2 本田斑点米カメムシ類発生圃場率の推移 (巡回調査圃場本田、すくい取り、20回振)

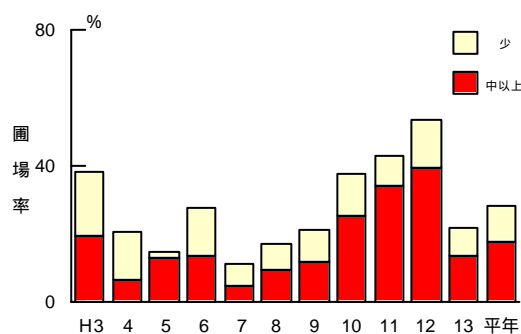


図3 斑点米発生圃場率の年次推移 (巡回調査地点、粒厚1.8mm以上)

平成13年のアカスジカスミカメ成虫発生推移と加害時期

- 平成11～13年とも7月まで高温に経過したため、第1世代成虫の発生ピークは7月下旬と早く、発生量も多かった。
- 平成11、12年は8月に入っても高温が続いたため、出穂および第2世代幼虫の発育が早まり、被害危険期間（穂揃期～乳熟期）に第1、2世代成虫の発生が重なったと考えられる。

一方、平成13年は7月6半旬～8月4半旬の低温により、出穂および第2世代幼虫の発育が遅れた。このため、出穂期には第1世代成虫の密度が低下し、第2世代成虫の発生ピークは被害危険期間以降となったと考えられる。

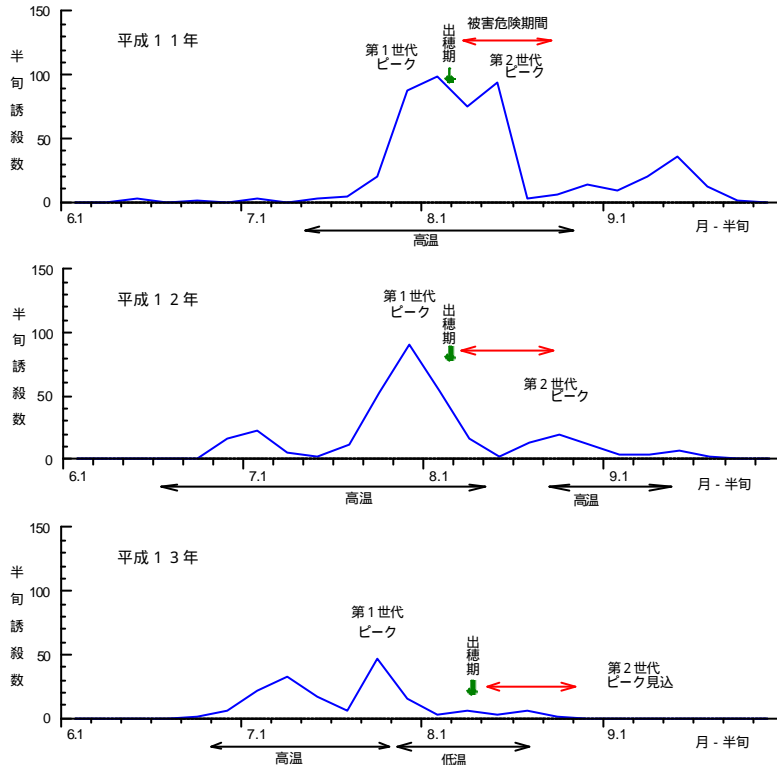


図4 アカスジカスミカメの発生時期と被害危険期間の年次比較
（平成11年：盛岡市予察灯、平成12～13年：遠野市予察灯）

平成13年に斑点米の発生が少なかった要因（まとめ）

草刈りや薬剤防除の徹底によりカメムシ類の密度が低下した（表1）。

7月下旬～8月中旬の低温により、主要な加害種であるアカスジカスミカメ第2世代成虫の発生ピークは被害危険期間以降の8月6半旬～9月1半旬となり、加害時期が遅れ、期間も短くなった。

表1 防除実施状況

年	7月下旬までの 草刈実施率 ¹⁾	薬剤防除実 施面積率 ²⁾
H12	48%	33%
H13	72%	49%

1) 防除所巡回調査結果

2) 病害虫防除員調査結果

斑点米カメムシ類の発生量、発生時期は短期間の気象条件で大きく変動し、水稻への加害時期、加害量も左右される。従って、年度当初に被害発生量、防除時期を予測するのは困難であるので、多発生に備えた以下の対策が必要である。

カメムシ類の増殖を防ぐため、発生源における密度抑制対策を必ず実施する（転作牧草地の出穂開花前の刈り取り、雑草地の解消、雑草地や畦畔雑草等の水稻出穂前の刈り取り等）

薬剤による防除は、病害虫発生予察情報（定期情報、注意報）やすくい取り調査結果に基づき、被害が懸念される地域を対象に実施する。